

だいいちだより

<http://www.daiichisho.com>

TEL 0598-21-0254

2026年度 全国学力・学習状況調査の結果・分析と今後の取組について

4月23日に6年生で実施された「全国学力・学習状況調査」の結果が文部科学省から公表されました。今回は、国語・算数の調査が行われました。本校においては、両教科で全国の平均正答率を上回る結果となりました。

	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本校	9.0問／13問	69%	10.3問／16問	64%
三重県	7.9問／13問	61%	8.8問／16問	55%
全国	7.9問／13問	60.9%	9.0問／16問	56.4%

教科に関する調査の結果・分析

国語	強み	情報を読み取る力（書かれていることを読む力、選択肢から選ぶ力）は、よく理解できている。また、基礎的読解力（基礎的な文章内容の理解力）もおおむね身につけている。
	弱み	「書く力」が弱く、特に根拠を示す問いであったり、条件に合わせて記述したりする問題や自分の言葉でまとめる問題に課題がある。また、複数の資料を関連付けて考える問題についても課題が見られる。
算数	強み	基礎的な学力（基本的な計算、基本的な概念、資料の読み取り）などは、おおむね定着している。計算技能は身につけている。
	弱み	自分の考えや解決の過程を説明する問題では正答率が低くなる傾向があった。根拠をもとに自分の考えを説明する問題には課題が見られた。また、「図形」「変化と関係」「データの活用」の領域についてもさらなる理解の深化が必要と思われる。

今後の取組

今回の結果は、日頃から子どもたちと教職員が、毎日の授業に真剣に取り組む、だれ一人取り残さないという思いで、学力向上に取り組んできた成果と考えます。今後も、良い面は伸ばしながら、今回見えてき課題について、以下のような取り組みを進めてまいります。

各教科等の学習場面で、これらの課題を意識し、文章や語句、図表など様々な情報を結び付けて考え、まとめて書く、また、相手の立場から、どこを詳しくすれば目的や意図に応じた文章になるかなど、他者にわかりやすく説明し、伝えることを意識した学習活動をこれまで以上に取り入れていきます。

質問紙に関する調査の結果・分析から

※「そう思う」と回答している児童の割合(全国比)

基本的生活習慣

- 「朝食を毎日食べていますか」 - 3.9P
- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」 - 7.2P
- 「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」 + 6.6P

自己有用感・学習習慣 等

- 「自分にはよいところがあると思いますか」 + 14.7P
- 「先生は、あなたのよいところをほめてくれていると思いますか」 + 13.3P
- 「人の役に立つ人間になりたい。」 + 8.4P
- 「学校へ行くのが楽しいですか」 - 2.2P
- 「わからないことやくわしく知りたいことがあったときに自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」 + 25.5P

まとめ

本年度の結果を見ると、基本的生活習慣、朝食・寝る時刻の部分でややポイントが低くなっており改善が求められます。基本的生活習慣が守られていること、家庭生活での安心感は、子どもたちの心の安定、学力向上の土台になるものと考えています。

学習習慣の面では、「わからないことやくわしく知りたいことがあったときに自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」のポイントが、全国に比べて25.5ポイントも高くなっています。子どもたちが、もっと知りたい、もっと調べたいと思うような授業づくりを今まで以上に進め、自ら計画して学びを進めるような経験を増やしていきたいと思います。

また、自己有用感の面では、「学校へ行くのが楽しいですか」のポイントが全国に比べてやや低くなっています。幸い、「先生は、あなたのよいところをほめてくれていると思いますか」「自分に良いところがあると思うか」「人の役に立つ人間になりたい」のポイントが高くなっており、これまで以上に、子どもたちが活躍できる場を増やし、子どもたちの良いところをしっかりと褒めて、声掛けかけをしていきたいと思います。そして、子どもたちが、「第一小学校楽しい」「また、明日も学校へ行きたい」と思えるように、全教職員で魅力ある学校づくりに取り組んでまいります。

今後とも、保護者の皆様のご理解・ご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

課題のあった問題例(算数)

2. 教科に関する調査結果(小学校算数)

出題の趣旨 二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる

5

4(3) 二次元の表から、前半にあやとりに参加する人数と、前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数を書く

6年生のさくらさんたちは、1年生と仲良くなるために交流会を計画しています。交流会では6年生と1年生がいっしょにボール遊び、おにごっこ、昔遊びをします。

(3)さくらさんたちは、前半と後半のあやとりやかるたに参加する1年生の人数を下の表にまとめました。

前半と後半の遊びごとの人数 (人)				
		後半		合計
		あやとり	かるた	
前半	あやとり	4	9	13
	かるた	8	7	15
合計		12	16	28

さくらさんたちは、あやとりに参加する1年生にひもをわたします。わたすひもの本数を知るために、表からあやとりに参加する人数を調べると次のことが分かります。

前半にあやとりに参加する人数は ⑦ 人です。
前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数は ⑧ 人です。

上の⑦、⑧に入る数を、それぞれ書きましょう

	本校	松阪市	全国
正答率	21.7	14.5	17.9
正答			
⑦13 ⑧8			

令和8年度
【小学校算数】
報告書 大問4
授業アイデア例



国立教育政策研究所

松阪市(本校)の児童の解答状況

⑦を13人と解答しているが、⑧が無解答または無解答になる割合が高い。また、⑦を8人と解答しているが、⑧を4人または9人と解答している児童の割合も高い。このことから、表の一つの項目だけに着目して数値を読み取ることはできても、「前半」と「後半」、「あやとり」と「かるた」という二つの条件を関連付けながら、条件に合う数値を読み取ることに課題があると考えられる。

授業改善方策

データを二つの観点から分類整理する方法について理解し、目的に応じて、二次元の表を作成したり、表から必要な数値を読み取ったりできるようにすることが重要である。指導に当たっては、前半にかるたに参加する人数を二次元の表から読み取る活動が考えられる。その際、読み取りたい場合について二つの項目を順序よく追ったり、読み取った数値がどのような場合なのかを捉えたりできるようにすることが大切である。また、合計はその行や列の数値を合わせた数であることを理解できるようにすることや、二次元の表を作成することを通して、データを二つの観点から分類整理する方法について理解できるようにすることも大切である。